

# 平成 24 年度施策マネジメントシート1(平成23年度実績の評価)

作成日 平成 24 年 8 月 21 日

総合 計画 体系	政策名	IV ふるさとを愛し豊かな心を育む教育と文化のまちづくり《教育・文化》	施策主管課	人権推進室
	施策名	26 平和と人権の尊重	施策統括課長	陶山 隆樹
		関係課		学校教育課、社会教育課、人権教育室

## 1. 施策の目的と指標

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)	対象指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		A	人口			人	実績 見込	42,428 41,917 41,159	41,159	41,032	40,650 40,323
	市民	B				実績 見込					
		C				実績 見込					
②意図(どのような状態にするのか)		成果指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	平和の意義を理解するとともに、人権を守り、お互いを尊重しあう行動をする。	A	自分自信が差別や人権侵害を受けたことがあると感じる市民の割合	%	実績 目標	24.6 (25)	18.1 23.0	16.6 22.0		21.0 20.0	
		B	他人の人権を侵害したことがあると思う市民の割合	%	実績 目標	16.2 (50)	9.5 15.0	8.3 15.0		15.0 15.0	
		C	平和に関する活動に参加している市民の割合	%	実績 目標	12.4 (12)	13.1 14.0	12.4 16.0		18.0 20.0	
		D			実績 目標						
	成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)	A)B)人権を守り、お互いが尊重しあう行動ができるかは、差別や人権侵害を受けたことがあるかどうか、他人の人権を侵害したことがあるかどうかの意識調査が必要だと考えた。 C)平和に関する活動等に参加すれば、平和の意義を理解することにつながると考えた。									
	成果指標の測定企画 (実績値の把握方法)	A)市民アンケート調査で把握「あなたは、ご自分が差別や人権侵害を受けたことがありますか？」 B)市民アンケート調査で把握「あなたは、他人の人権を侵害したことがありますか？」 C)市民アンケート調査で把握「あなたは、過去1年間で平和に関する活動や式典等に参加しましたか？」(具体的には、平和賞応募・式典参加、講演会、記念館見学、戦没者追悼式参加、ボランティア活動などを指す)									
	目標設定とその根拠 (基本計画策定期)	A)人権・同和問題の解決は、全国民が願うところであることから、地域実情にあつた取り組みを推進していく。目標値は、地域・世代にあつた継続的な活動を実施することで、H26年に現状から5ポイント程度減少させることとする。 B)成行値は、現状程度で推移すると予測する。目標値は、人権意識が向上すると人権侵害に気づく市民も増加するため、A)と同様の取り組みにより上昇すると見込むものの、相殺されてしまうとの増加は期待できないと考え、1ポイント程度の向上とした。 C)成行値は、取り組みをしなければ同程度で推移すると予測する。市は「『平和を』の都市宣言」をしており、平和に関する活動の場を増やし意識向上を図っていくことから、H26年には20%の市民が活動に参加するようになることを目指す。									

## 2. 基本事業の目的と指標

	基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
①	平和と人権・同和問題の正しい理解と認識の促進	市民	平和と人権・同和問題に対する正しい認識を持つ。	自分自身が差別や人権侵害を受けたことがあると感じる市民の割合	%	実績	24.6	18.1	16.6			
②	活動団体の育成支援	市民	平和と人権・同和問題に対する仲間を作つて行動する。	活動団体数	団体	実績	4	4	4			
③	相談体制の充実	市民	平和と人権・同和問題に対する適切に対応・対処する。	相談件数	件	実績	94	106	115			
④						実績						
⑤						実績						

## 3. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	住民(事業所、地域、団体)の役割	行政(市、県、国)の役割
	●人権・同和問題に対しての正しい知識と理解を深め、自分の問題として捉え、暮らしの中で実践する。	●雲南市人権施策推進基本方針等に基づき、地域の実情をふまえた教育・啓発活動を推進していく。
状況変化	A)施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して)	B)この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	○人口減少・少子高齢化はさらに進み、家庭環境は核家族化により、子どもと保護者及び高齢者と交流する機会が減少している。 ○経済状況が悪化しゆとりのない生活が続くと、平和や人権に対する住民意識が低下することが懸念される。 ○地域での活動は、H22年度から地域自主組織が主体的に取り組んでおり、行政としてさらなる活動の強化が必要である。	○市民から、住みよい明るいまちづくりに向けて、人権・同和教育、啓発活動の取組みを強く求められている。

## 4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準)		
<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	背景 ・ 要 因	○県が実施した「人権問題に関する県民意識調査」によると、①「過去に自分自身が差別や人権侵害を受けたことがある」という割合は県平均27.2%、松江・安来27.4%、出雲27.8%、浜田23.5%、益田28.7%、隠岐25.0%、雲南28.0%であり、近隣他市とほぼ同水準である。②「他人の人権を侵害したことがある」という割合は県平均8.1%、松江・安来6.9%、出雲7.8%、浜田8.3%、益田12.8%、隠岐7.5%、雲南8.4%であり、近隣他市とほぼ同水準である。

## 平成24年度施策マネジメントシート2(平成23年度実績の評価)

《26 平和と人権の尊重》

### 4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)

<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	<b>背景</b> ●「人権侵害を受けたことがある」割合、「人権侵害をしたことがある」と感じる割合は、継続的な学習会等の成果により、ともに減少している。  <b>要因</b> ○「平和に関する活動に参加している」割合は、継続的な取り組みの成果として、ほぼ同水準で推移している。

### 5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度（前年度の成果指標値に対する実績値の達成度）

<input checked="" type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	<b>背景</b> ●人権・同和問題に関する研修会に、幅広く多くの方に参加していただくように、「定例公開講座」を地域に出掛けけて開催。「同和問題地域講座」を地域自主組織や自治会等で開催したことにより、参加しやすい研修会となり意識啓発につながったと考える。  <b>要因</b> ●「学校・地域・事業所」を対象にした教育・啓発活動を継続的に開催した。こうした積み重ねにより、市民の人権意識調査(市民アンケート)では目標値を上回ったと推察される。

基本事業	取り組んだ事務事業の総括（事務事業貢献度評価：貢献した事務事業、課題が残った事務事業）
平和と人権・同和問題 ① の正しい理解と認識の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>市職員等研修では、市立病院や広域連合の職員等が参加しやすい会場や日程等を配慮し、参加率の向上に努めた。</li> <li>地域での研修では、定例公開講座・地域講座の会場を各町で開催するなどの工夫をした。</li> <li>学力・進路保障運営事業により、子どもと保護者、地域、学校、行政の交流による信頼関係の構築を図った。</li> </ul>
② 活動団体の育成支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>全日本同和会島根県連合会雲南支部、部落解放同盟島根県連合会雲南支部などの活動を継続的に支援した。</li> </ul>
③ 相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>同和地区生活相談員を配置し、同和地区における諸問題に関する相談を実施した。</li> </ul>
④	
⑤	

### 6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修会等を継続的に開催し、正しい理解と認識を深めていく必要がある。</li> <li>○相談機関、運動団体と連携を図っていく必要がある。</li> <li>○市民が平和の意義を理解し、実践につながっていくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修会等を継続的に開催し、正しい理解と認識を深めていく。</li> <li>○相談機関、運動団体と連携を図っていく。</li> <li>○平和の意義を理解し、実践できるよう取り組んでいく。</li> </ul>
平和と人権・同和問題 ① 題の正しい理解と認識の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各地域で人権・同和問題の研修・学習会を積極的に企画し継続的に開催していく必要がある。</li> <li>○幅広く多数参加してもらえる研修・学習会を企画していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各地域研修会等へ講師の紹介や研修会開催に関する情報を提供していく。</li> <li>○地域自主組織、自治会、教職員、行政職員等に対する研修会や講座を継続的に開催していく。</li> <li>○地域講座は、同和問題に絞って、各地域に呼掛けて開催していく。</li> </ul>
② 活動団体の育成支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○同和問題の解決を図るために、運動団体との連携が不可欠である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動団体との協力関係を保ち、連携を図っていく。</li> </ul>
基本事業 ③ 相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○同和地区生活相談体制を充実していく必要がある。</li> <li>○関係する相談機関・団体との連携が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○同和地区生活相談員の研修等を実施し、相談体制の充実に努めしていく。</li> <li>○関係する相談機関・団体との連携を図っていく。</li> </ul>
④		
⑤		